

特別展

表千家十五代家元

猶有斎襲名茶事の跡見展

令和八年三月二十日(金・祝)～五月二十六日(火)

表千家北山会館

京都市北区上賀茂桜井町61番地



北山会館 HP

寄付

葛盆 惺齋好 松ノ木摺漆竹手付

火入 カネ

灰吹 白竹

火鉢 黄交趾 大徳寺形

汲出 萩

通盆 丸

駒澤利齋作

中川淨益作

永樂妙全造

坂倉新兵衛作

飛来一閑作

露地

葛盆 元伯好 手付木瓜形

火入 青磁 穂屋 覚々齋好

煙管 如心齋好 筋

手焙 アンコウ

水張桶

露地柄杓 木地 杉

飛来一閑作

啐啄齋・了々齋箱

不審菴 炭点前

掛物 春屋宗園筆 不審菴之記

釜 元伯好 蒲団

炉縁 木地 沢栗 了々齋在判

香合 南京 コマ紋

西村九兵衛作

啐啄齋・即中齋箱

了々齋箱

了々齋箱

啐啄齋箱

惺齋箱

炭斗 利休所持 油竹菜籠

羽箒 鶴

火箸 了々斎好 桑柄

鑊 利休所持 鉄ササゲ

紙釜敷 白

樂吉左衛門作

少庵形 桑柄

奥村吉兵衛作

啐啄斎・了々斎箱

了々斎箱

如心斎箱

猶有斎箱

了々斎箱

残月亭 懷石

折敷 而妙斎好 コマ足溜塗膳

飯・汁椀 猶有斎好 爪緑小丸

向付 而妙斎好 交趾松笠

ツボツボ 樂覚入作 赤

爛鍋 了々斎好 独樂ツマミ

盃 樂惺入作 赤繪替蓋

盃 利休形 朱引

盃 利休形 黒塗

煮物椀 猶有斎好 笹唐草蒔絵

飯次 即中斎好 爪紅

焼物鉢 如心斎秘藏 備前

炊合鉢 金襴手 南紀男山焼 むぎわら手

酢物鉢 古薩摩

中村宗哲作 猶有斎箱

中村宗哲作 永樂即全造

大西浄雪作

中村宗哲作

中村宗哲作

中村宗哲作

中村宗哲作

永樂即全造

如心斎・啐啄斎箱

碌々斎箱

德利

備前

惺齋箱

石盃

赤絵 福寿猪口

永樂即全造

吸物椀

即中齋好 糸目

中村宗哲作

八寸

木地

酒盜鉢

祥瑞菱

永樂保全造

湯次・杓子

即中齋好 爪紅

中村宗哲作

香物鉢

樂慶入作 伊賀写

惺齋箱

菓子

菓子器

即中齋好 芽張柳絵 朱縁高

飛来一閑作

不審菴

濃茶

花入

利休所持 高麗筒

利休箱

水指

伊賀耳付 如心齋銘 大黒柱

如心齋・即中齋箱

茶入

利休所持 備前 銘 布袋

元伯・而妙齋箱

仕服

白地中牡丹古金襴

本願寺小牡丹金襴

利休緞子

国師漢東

茶碗

ノンコウ作 黒 江岑銘 稻妻

江岑・啐啄齋・了々齋・碌々齋・即中齋箱

樂慶入作 黒 稻妻写

古卜トヤ 貼紙 啐啄齋筆

井戸

(特別展示 3月24日〜4月12日)

◎二階 展示室

出服紗 猶有齋好 千歳紹巴 二種(藤色・若竹色) 土田半四郎作  
茶杓 少庵作 共筒 如心齋替筒 如心齋箱

残月亭 薄茶

掛物 了々齋筆 横物「開一花五葉」

盆石 吸江齋銘 富士

盆 惺齋好 爪紅カツラ盆 惺齋在判 飛来一閑作

硯箱 惺齋好 日出波ノ絵 惺齋在判 駒澤利齋作

釜 惺齋好 常盤 大西浄長作

炉縁 惺齋好 桐鳳凰蒔絵真塗 惺齋在判 中村宗哲作

風炉先屏風 猶有齋好 千家桐 腰 猶有齋在判 奥村吉兵衛作

棚 青漆爪紅台子 中村宗哲作

水指 碌々齋好 溜塗手桶 碌々齋在判 春齋作

柄杓立 覚々齋好 渦 中川浄益作

火箸 碌々齋好 渦頭 中川浄益作

建水 覚々齋好 渦 中川浄益作

蓋置 覚々齋好 渦 中川浄益作

茶器 如心齋好 ツボツボ蒔絵棗 如心齋在判 中村宗哲作

茶碗 ノンコウ作 黒 三井稻妻 如心齋在判 吸江齋・而妙齋箱

随流齋手造 黒 銘 綾織 啐啄齋箱

古萩 刷毛目 覚々齋・如心齋・啐啄齋箱

唐津 塩筥

而妙齋筆 鶴ノ絵 赤 樂直入作 而妙齋箱

◎二階

茶碗

猶有齋手造 赤銘 曙光

猶有齋好 金欄手 松鶴

茶杓

覺々齋作 共筒 銘 蟻通し

水次

即中齋好 南鐮コマツナギ菓罐

菓子器

了々齋好 打合盆 了々齋在判

永樂而全造

覺々齋・碌々齋箱

中川淨益作

即中齋箱  
了々齋箱

呈茶ロビー

而妙齋好 カリロク

組立式小間

掛物

猶有齋筆 横物 清流画賛「無間断」

釜

蒲団

炉縁

木地

## 地階映像「不審菴」 平成11年制作（約34分）

露地や不審菴など、茶事の参加者が実際辿った景色を紹介いたします。  
展示とあわせてぜひご覧ください。

## 館内閲覧映像のご案内

展示を楽しむ

- ◆ 令和八年特別展 イメージ映像（約2分）
  - ◆ 「而妙斎宗匠毘寿の茶事の懐石」 木村淳郎氏（柿傳主人） 平成28年市民講座（約99分）
  - ◆ 「家元の代替りと隠居」 熊倉功夫氏（MIHOMUSEUM館長） 平成30年記念講演会（約91分）
- 表千家不審菴

◆ 京都表千家 茶の湯歳時記（約30分）  
茶の湯への誘いいそな

- ◆ 日常のお茶（約5分）
- ◆ 道具に親しむ（約4分）
- ◆ 千利休の茶の湯（約6分）
- ◆ 茶事（へこころ）と（かたち）（約11分）

3階書籍コーナー設置のタブレットのほか、ご自身のスマートフォン等でも、上映時刻を気にせずご自由に映像をご覧くださいことができます。



NETWORK  
GUEST  
PASSWORD  
guest123



SCAN TO CONNECT

閲覧パスワード  
0mosen202603